株式会社まめっと

令和７年６月作成

嘔吐物処理マニュアル

処理の３原則

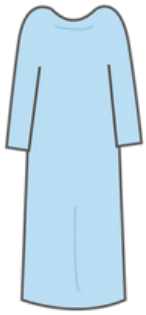
1.すぐに拭き取る

2.乾燥させない

3.消毒する

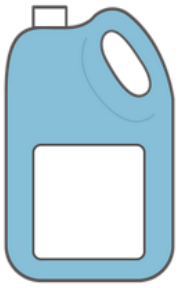
を心掛け、速やかに正しく処理してください

1.準備物



・防護用具（マスク、手袋、使い捨ての長袖エプロン）

・バケツ（ポリ袋２枚重ね）、使い捨てのペーパー類



・次亜塩素酸ナトリウム　有効塩素濃度 1000ppm（0.1%）以上

2.次亜塩素酸ナトリウムの注意点

・使用時の注意点

　使用時は必ず換気をしながら行うようにしましょう。　目に入ったり、皮膚についたりしないよう注意してください。　人がいる空間への次亜塩素酸ナトリウム水溶液の噴霧については、眼や皮膚に付着したり吸入したりすると危険であり、噴霧した空間を浮遊する全てのウイルスの感染力を滅失させる保証もないことから、絶対に行わないでください。(厚労省　新型コロナウイルスの消毒・除菌方法についてより)

霧吹きではご使用になりませんようご注意ください。スプレーボトルによりピューラックスの希釈液を噴霧して使用になりますと、液体がまんべんなく行き渡らず消毒が不十分になるおそれがあります。　また、ミスト状のピューラックス希釈液を吸い込んでしまうと健康被害につながる可能性があるため危険です。(株式会社オーヤラックス　確実な消毒効果を得るためのポイントより)

・保管時の注意点

原液：医療用の次亜塩素酸ナトリウムは、遮光した上での使用期限は、半年～3 年程度。例えばピューラックスは 1 年程度です。

希釈液：濃いもの（1000ppm）　希釈後未使用であれば 1 ヶ月、遮光・汚れを入れない状態であれば 1 週間程度が目安です。(公開用感染制御相談事例集(Q&A)参照)

消毒液の作り方（0.1%）

・原液濃度が５パーセントから６パーセントの塩素系漂白剤を使用する場合は、500 ミリリットルのペットボトル１本の水に、10 ミリリットル（ペットボトルのキャップ２杯）の次亜塩素酸ナトリウムを入れます。

・ピューラックスＳの希釈目安（２Ｆでは約５００倍を目安に作成しています）

希釈倍率（次亜塩素酸ナトリウム濃度）		600倍（0.01%）	300倍（0.02%）	200倍（0.03%）
水の量	１Ｌ	1.7mL	3.3mL	5mL
	２Ｌ	3.3mL	6.7mL	10.1mL
	３Ｌ	5mL	10mL	15.1mL

3.嘔吐が発生した際の対応

①人員配置

・体調不良者の対応：１人以上

・嘔吐物の処理：１人以上

・周囲の安全確保：１人以上

②発生時の対応

1.体調不良者をトイレのベッドもしくは安静に過ごせる場所へ移動できるように導線の確保、および他利用者が現場へ近づかないように場所の確保

2.体調不良者を移動させる

3.換気を行うとともに嘔吐物の処理を行う（下記を参照）

4.床や壁、車いす等の消毒を行い、汚れてしまったものは廊下へ出す

5.体調不良者の着替えが済んだのち、他利用者さんから離れた場所で安静に過ごす

6.利用者さんの衣服が汚れてしまった場合は、水洗いをせずに汚れを内側へ直しながらビニール袋（２重）へ入れて持ち帰る

7.スタッフや周囲に汚れがついていないか確認のち、通常業務へ戻る

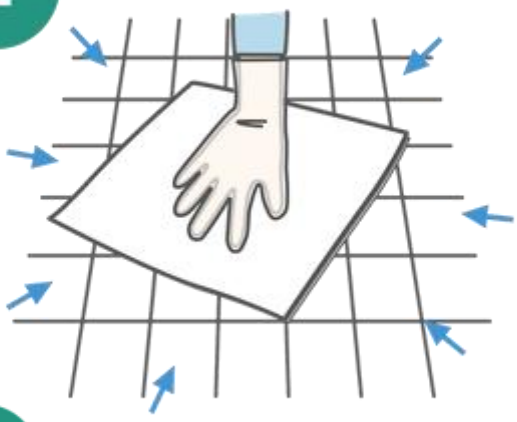
嘔吐物処理手順

1

・手袋（２重に着けてもよい)、マスク、長袖の使い捨て　エプロンを着用。

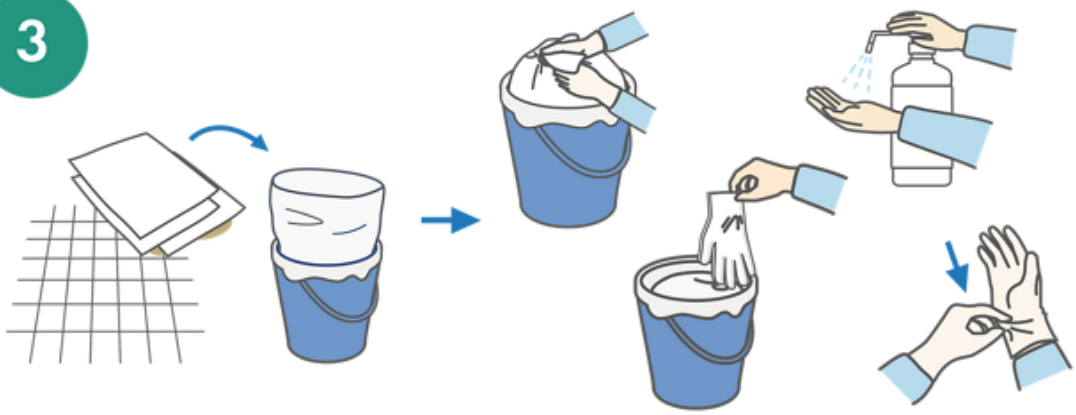
・嘔吐物飛散防止のため、ペーパー

2



・ペーパーを使い外側から内側へ向けて、嘔吐物を静かに拭きとる。

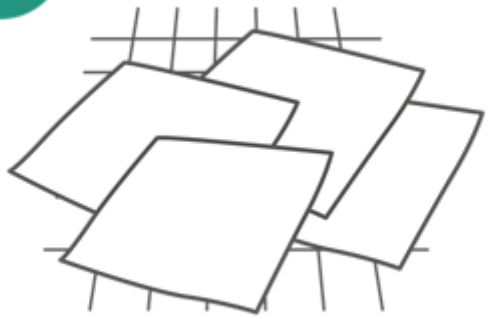
3



・拭き取ったペーパーをすぐにゴミ袋へ入れる。手袋が汚染されている恐れがあるため交換、手指消毒をおこないポリ袋の口を縛る。

※ポリ袋の空気は抜かない

4



・新しいペーパーを嘔吐物があった場所より広めに敷く。

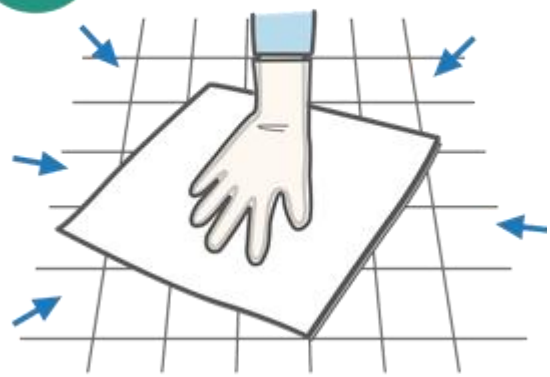
5

・次亜塩素酸ナトリウムをまく

※ペーパーおよびカベなど周囲の出来る限り広い範囲を処理する

※10～15分放置する

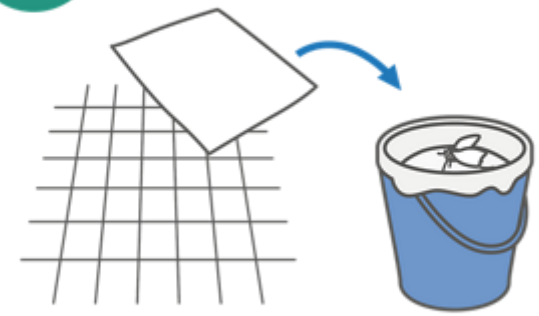
6



・ペーパーを回収後、残った次亜塩素酸ナトリウムを中央に向かって拭き取った後、更に液が残らないように必ず十分な水拭きをする。

※ 次亜塩素酸ナトリウムは金属を腐食させるなどの基材損傷性があるため

7



・拭き取ったペーパーをポリ袋に捨てる

8

・手袋をポリ袋に捨て手指衛生をした後、新しい手袋を着用する

・その後、エプロン→マスクの順にポリ袋に入れ、口を縛り捨てる

※ポリ袋の空気は抜かない

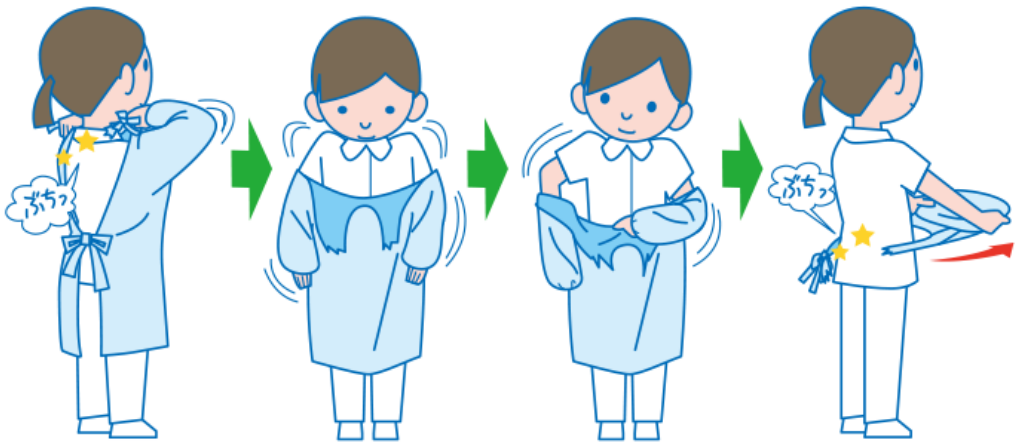
9

・処理後、速やかに手洗いとうがいを十分に行う

※靴に付着していないか確認する

（花王プロフェッショナルサービス参照）

図5　ガウンの脱ぎ方



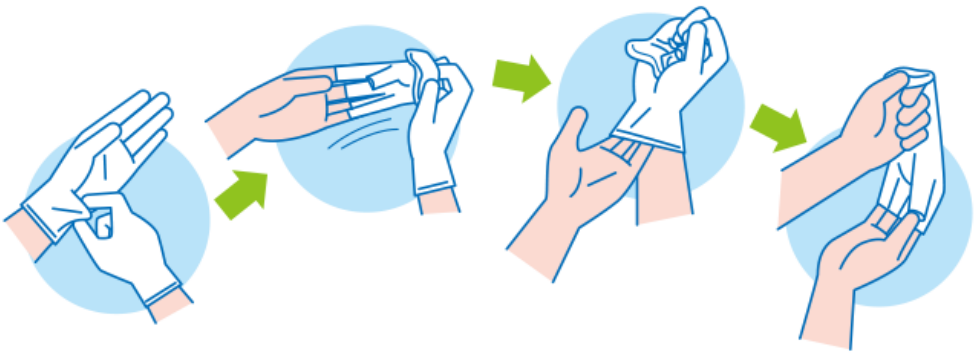
①首ひもを切る。

②外側に触れないように腰のあたりで折りたたむ。

③袖から腕を抜く。（外側に触れないように抜くのがポイント）

④外側を中にしてまとめ、腰ひもを切って外す。

図10　手袋の外し方



①片方の手袋の手首の部分をつかむ。

②手袋の外側が内側に入るように外す。

③外した手袋を握り、手袋を外した手を内側に差し込む。

④手袋の外側に触れないよう、裏返すように外す。

図7　サージカルマスクの外し方

サージカルマスクの表面は汚染されている可能性があるため触れないようにし、ひもを持って外す。
外したあとは手指衛生を行う。

参考文献

花王プロフェッショナルサービス

https://pro.kao.com/jp/medical-kaigo/improvement/infection-control/vomit/#

厚生労働省　感染対策普及リーフレット

https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/001206496.pdf

看護 roo

https://www.kango-roo.com/ki/image_2433/

https://www.kango-roo.com/learning/8228/

東京総合病院

https://www.tokyo-hospital.com/archives/14921/